HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	農村社会の持続における新規参入者の役割に関する研究 : 北海道平取町振内地区と余市町登地区を事例に [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	鄭, 龍暻
Citation	北海道大学. 博士(農学) 甲第13266号
Issue Date	2018-06-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/71209
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Yongkyeong_Jeong_review.pdf (審査の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称　　博　士（農学）　　氏名　鄭　龍暻

審査担当者	主　査	准教授	小　林　国　之
	副　査	教　授	坂　下　明　彦
	副　査	教　授	柳　村　俊　介
	副　査	准教授	朴　　紅

学 位 論 文 題 名

農村社会の持続における新規参入者の役割に関する研究
―北海道平取町振内地区と余市町登地区を事例に―

本論文は序章、終章を含む5章からなり、図 9、表 10、文献 101 を含む総頁数 98 の和文論文である。別に 1 編の参考論文が添えられている。

近年、日本において農村人口の減少、高齢化問題が深刻化しているなかで、農村において担い手として新しい人々を呼び込むための受け入れ体制整備が行われている。北海道においても多くの地域で農業における新規参入者受け入れ体制が構築され、その結果新規参入者が集積している地域が見られている。本研究は、新規参入者を受け入れることで、農村社会は持続するのかと点を明らかにするために、新規参入者が果たしている地域社会の維持に関する機能（地域機能）を、地域を基盤とした「守りの機能」と広域的な「攻めの機能」という両面からとらえ、その実態を明らかにするとともに、新規参入者が新たに担っている新しい機能についても明らかにした。

第1章では、北海道における新規参入者受け入れ体制と新規参入者動向を明らかにするとともに、北海道の集落状況を把握した。北海道における新規参入者数は、2014 年から大きく増加しており、2016 年には 117 人が参入している。一方、北海道農村部の高齢化率は 2015 年 34.6%に至っており集落増加率は-36.0%という大きい減少となっている。

第2章では、北海道平取町振内地区を中心に新規参入者の実態を明らかにした。振内地区の新規参入者は、参入動機は異なるが地域の定型化された研修制度に従ってハウストマトの専業的農業経営体として参入している。栽培作目がトマトに限定されており、出荷先も決められている。その意味で多様な参入動機が経営形態には反映されていない。地域との関わりを見ると、既存の集落組織との関係はつよく、さらに新規参入者を支援するための地域的組織として「ふれないネオフロンティア」が重要な役割を果たしていた。ふれないネオフロンティアは、既存農家が地域を維持していくため積極的に新規参入者を受入、定着させるために組織したもので、現在は新規参入者も加わっている。振内地区の新規参入者は全員その組織に参加しており、自らも新規参入者の支援を行っている。現在は新規参入者が活動の中心となっている。また、受け入れ農家、技術指導や

研修施設管理などの農業支援だけでなく、おすそ分けや生活相談などの生活への支援も行っている。

第3章では、北海道余市町登地区における新規参入者の実態を明らかにした。余市町では、新規参入者を受け入れる際には、品目や研修期間を定型化していない。登地区の新参入者もこうした環境の中で参入していることから、栽培作目が多様である。ワイナリーを造るため参入している企業や、農家(ドメーヌ)も多数見られるなど、自分の理想や参入動機に沿った農業経営を行っている。地域との関わりを見ると、新規参入者が自ら加工組織やワインイベントを作りながら新しい活動を行っている。その一つの組織としてのぼりんぐは、新規参入者女性たちが作った組織であり、加工品、販売の取り組みをおこなっている。また、余市ワインぶどう栽培農家のイベントは、新規参入者研修生が中心となって開催されるワインイベントであり、既存農家や地区の有力なドメーヌが参加するなど、地域全体の組織となっている。

終章では、2地区を比較しながら新規参入者が農村生活の中で担っている機能を小田切(2014)、福与(2011)を用いて明らかにした。

振内地区の農家組織であるふれないネオフロンティアは、集落を基盤として既存農家が中心となり作られた組織に新規参入者が加えられ、その枠組みを変化させず地域を維持していく点から「守り」の地域機能を持っていると考えられる。登地区の場合、ワインイベントを通じて全国各地の人々を集めており、余市町、その中でも登地区を全国に知らせる役割を果たしている。新規参入者が地域内での関わりの他に、地域を超える単位での機能を果たしているといえ、これは「攻め」の地域機能といえる。

本論文では、農村社会が持続することを前提として、新規参入者による地域機能の維持を明らかにするという視角から実態分析を行った。その結果、新規参入者はこれまでの農村社会の機能を受け継ぐだけではなく、地域外とつながることで新たな新規参入者をうながすという新たな機能を果たしていることが明らかとなった。新規参入者が果たしているこうした新たな機能はこれからの北海道の農村社会の持続において重要であろう。

本論文は、新規参入者が農村社会の維持にために果たしている地域機能について明らかにした。そのことは、都府県とは異なる特質を有する北海道の農村社会維持において重要な論点を提示するものである。

よって、審査員一同は、鄭龍暻が博士(農学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。